

くすりのしおり

内服剤

2025 年 04 月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

製品名：タルセバ錠 150mg

主成分：エルロチニブ塩酸塩 (Erlotinib hydrochloride)

剤形：白色～黄白色の錠剤、直径約 10.5mm、厚さ約 5.4mm

シート記載など：T150 タルセバ 150mg



この薬の作用と効果について

がん細胞の増殖に必要な上皮増殖因子受容体（EGFR）というたんぱく質の働きを選択的に抑えることにより、非小細胞肺癌の増殖を抑えます。

通常、切除不能な再発・進行性で、がん化学療法施行後に増悪した非小細胞肺癌、EGFR 遺伝子変異陽性の切除不能な再発・進行性で、がん化学療法未治療の非小細胞肺癌の治療に用いられます。

次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。間質性肺疾患、消化管潰瘍、腸管憩室、肺感染症、または以前にそれらになったことがある。肝臓に障害がある。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（：医療担当者記入）
- ・通常、成人は 1 日 1 回 1 錠（エルロチニブとして 150mg）を食事の 1 時間以上前または食後 2 時間以降に服用しますが、症状により適宜減量されます。必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・副作用が強くでる可能性があるため、食事の 1 時間前から食後 2 時間までの間の服用は避けてください。
- ・飲み忘れた場合は、空腹時に 1 回分を飲んでください。ただし、次に飲む時間が近い場合は 1 回とばして、次の時間に 1 回分飲んでください。絶対に 2 回分を一度に飲んではいけません。
- ・誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。重度の下痢、発疹、ALT（GPT）、AST（GOT）の上昇などがあらわれることがあります。
- ・医師の指示なしに、飲むのを止めないでください。

生活上の注意

- ・この薬により重篤な副作用があらわれることがあるので、注意すべき点などについて十分理解できるまで説明を受けてください。
- ・この薬により、間質性肺疾患、発疹、下痢、角膜穿孔、角膜潰瘍などの副作用があらわれることがあります。この薬の使用中に、息切れ、呼吸困難、咳、発熱、発疹、下痢、眼の痛みなどの症状があらわれたり、それらの症状が重くなったように感じた場合は、ただちに受診してください。
- ・妊娠する可能性のある人は、この薬を使用している間および使用後 2 週間は適切な方法で避妊してください。
- ・グレープフルーツジュース、セイヨウオトギリソウを含有する食品、タバコ（喫煙）はこの薬に影響しますので、控えてください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、ざ瘡様皮疹などの発疹、下痢、口内炎、皮膚乾燥・皮膚亀裂、爪囲炎などの爪の障害、食欲不振、感染症（皮膚感染、肺感染、上気道感染など）、便秘、そう痒症、貧血、悪心、嘔吐、けん怠感、発熱、疲労、味覚異常、体重減少、脱毛などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・咳、息切れ、息苦しい〔間質性肺疾患（間質性肺炎、肺臓炎、放射線性肺臓炎、器質化肺炎、肺線維症、急性呼吸窮迫症候群、肺浸潤、胞隔炎など）〕
- ・発熱、全身の発赤、皮膚・粘膜のただれ〔重度の皮膚障害〕
- ・何度も水のような便が出る、下腹部の痛み、体がだるい〔重度の下痢〕
- ・吐き気、嘔吐、寒気〔消化管穿孔、消化管潰瘍、消化管出血〕
- ・目のかすみ、目の痛み、目の異物感〔角膜穿孔、角膜潰瘍〕

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

- ・乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保管してください。

・薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄方法がわからない場合は受け取った薬局や医療機関に相談してください。他の人に渡さないでください。

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。